

2017 MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ 第8戦  
SUPERBIKE RACE in OKAYAMA

岡山県 岡山国際サーキット(1周=3.703km)

■ 渥美 心 JSB1000 予選:22番手 (タイム:1分31秒816) 決勝:16位

■ 岡崎静夏 J-GP3 予選:13番手 (タイム:1分38秒179) 決勝:20位

天候:2017年9月30日(土) 晴れ コース:ドライ

10月1日(日) 曇り コース:ドライ

観客動員数: 8,800人(2日間合計)

**080** 渥美 心 Cocoro Atsumi  
class : JSB1000  
machine : Honda CBR1000RR

**6** 岡崎 静夏 Shizuka Okazaki  
class : J-GP3  
machine : TSR3

## 岡崎静夏が初めてトップ争いを繰り広げる



全日本ロードレース選手権も今回の岡山ラウンドを含め残り2戦となった。岡崎の参戦するJ-GP3クラスは、6月のシリーズ第5戦以来3カ月振りのレース開催となった。今回は、レースウィークの前週に事前テストが行われ、久しぶりに乗るTSR3の感触は、もちろん、昨年末に張り替えられたアスファルトのコンディションも見ながらマシンをセットアップして行った。JSB1000クラスの渥美も、1000ccで岡山を走るのは初めて。岡山は嫌いなコースではなかったが、1000ccでは、全く走り方が変わっており、タイムが伸び悩んでいた。

レースウィークは、快晴のもとで始まった。渥美は、事前テストから1分32秒台を切れずにいたが、初日も1分32秒227で20番手とタイムを縮められない。走り方を考えながらマシンセットを詰め、土曜日の公式予選では、1分31秒台に入れることができたが22番手とポジションを下げた。



一方、岡崎も事前テストから単独でタイムを出せずにいた。初日は、1本目にマークした1分39秒633がベストで17番手と苦しい出だしだったが、公式予選では、他車のスリップストリームを使い1分38秒179までタイムアップ。それでもポジションは、13番手と、もっと前のグリッドを確保しておきたかったところだ。

日曜日は雲が広がり気温は、金、土曜に比べれば上がらなかった。この日、最初のレースとなったJ-GP3クラス。スタートでエンジンをストールさせたマシンがあり、仕切り直しとなり、1周減算の18周で争われた。岡崎は、好スタートを切り、トップグループの後方に



つける。オープニングラップは、7番手で戻って来る。その後、1台にかわされ8番手に下がるが、トップグループに食らい着いて行く。レース終盤に入り徐々に離されてしまい、ラストラップのヘアピンで転倒し、レースを終えてしまうが完走扱いの20位となった。結果以上に、トップが見える位置でレースをしたことがプラスになったようだ。

渥美も前の集団には、置いていかれてしまったが、1台をかわし16位でゴール。転倒もなく、着実に走り切ったことで、最終戦鈴鹿に向けて、いい流れを作ることができそうだ。



### 渥美 心コメント

「決勝が一番いい状態でしたが、そこまでの持ちタイムが低く、前の集団について行くことができませんでした。岡山国際サーキットは、嫌いではないのですが、JSB1000のようにパワーがあると全く乗り方が違うので、しっかり曲げて加速するという部分が、まだまだ課題になっています。次戦は、最終戦になってしまいます。勝手知ったる鈴鹿サーキットなので、今シーズンやってきたことを、すべて注いで納得できるレースにしたいと思っています」

### 岡崎 静夏コメント

「トップグループで走ることができ、すごく勉強になりました。転倒してしまっことは反省していますが、転倒したからこそ分かったこともあったので、この経験を生かして最終戦鈴鹿でもトップグループを走れるよう、そして表彰台を狙えるように精一杯走ろうと思っています。引き続き応援よろしくお願いたします」

### 小原 斉 監督コメント

「渥美は、大幅なステップアップはなかったものの、事前テストから転倒もなく、すべての走行をキッチリ走れたことがプラスになっていると思います。岡崎は、初めてトップグループでレースができ、大きな自信になったと思います。あとは、事前テストからレースウィークの組み立てを、よくすることが課題ですね。今回も多くの応援ありがとうございます。最終戦鈴鹿は2人とも今シーズン一番のレースにできるようにバックアップして行きます」